

日本気象学会

昭和51年春季大会

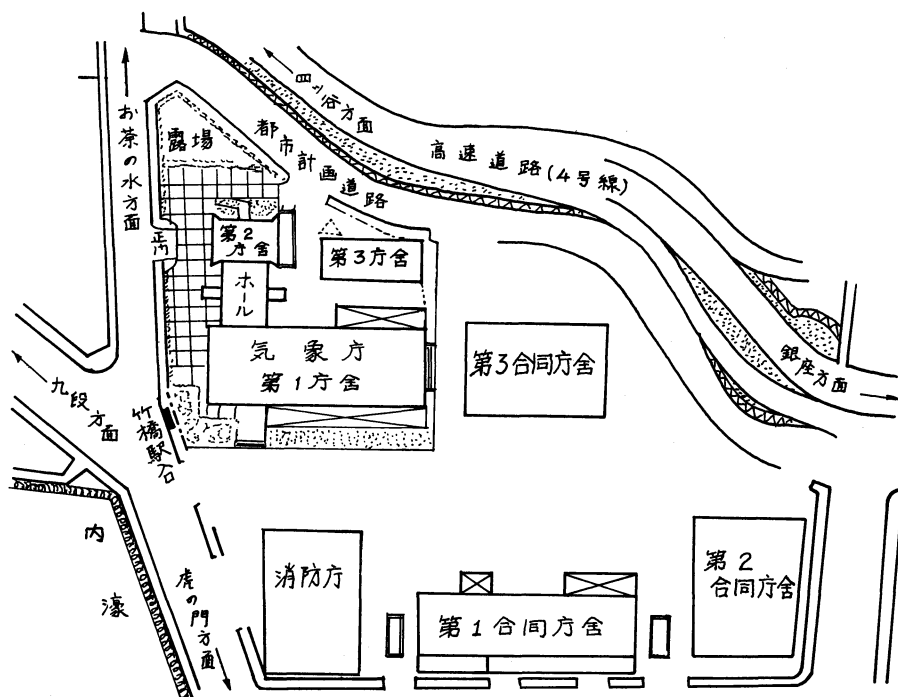
会期：昭和51年5月18日（火）、19日（水）、20日（木）

会場：気象庁（東京都千代田区大手町 1-3-4）

目 次

日本気象学会昭和51年度総会提出議題	ii
大会行事予定表	iii
総会次第	iii
研究発表内容一覧	iv
研究発表題目	v~ix

会場案内図



（道順）地下鉄東西線竹橋駅下車がもっとも便利です。

* 本大会の「大会参加申込書」用紙は「講演予稿集」に綴じ込まれていますので、予め記入の上、忘れずに当日会場受付までご持参ください（当日、会場受付には若干部しか用意してありません）

日本気象学会昭和51年度総会提出議題

1. 学会費・藤原賞選定規定の一部改正に関する件.

提案理由

学会賞および藤原賞の賞金は1件5万円となっているが、この金額は昭和37年に改正されて以来変わっていない。最近の諸般の事情を勘案して7万円に増額したい。

改正案（学会賞・藤原賞共に）

(5) 項を次のとおり改める。

……………また賞金は原則として1件7万円とする。

2. 山本義一会員を名誉会員に推薦する件.

提案理由

本学会機関誌にすぐれた論文を寄稿し気象学の発展に寄与した。

本学会役員として長期にわたり（理事通算16年うち理事長4年）本会の維持発展に努めた。

東北大学教授として永年にわたり気象学の発展に努めた。

それらの功績を高く評価し定款第6条第5項を適用して名誉会員に推薦したい。

大会行事予定表

1. 会場 気象庁（東京都千代田区大手町1-3-4）
第1会場：講堂（予定）
第2会場：第1会議室（予定）
第3会場：気象大学校研修教室（予定）
2. 会期 5月18日（火）、19日（水）、20日（木）
3. 行事

行事		
大会（研究発表）（第1、第2、第3会場）	5月18日（火）	9.00～12.30
〃	〃	13.30～17.00
大会（研究発表）（第1、第2、第3会場）	5月19日（水）	9.00～12.00
シンポジウム（第1会場）	〃	13.00～15.00
総会（〃）	〃	15.00～
学会賞藤原賞受賞記念講演（〃）	〃	～17.00
懇親会	〃	17.30～
大会（研究発表）（第1、第2、第3会場）	5月20日（木）	9.00～12.30
〃		13.30～17.00

大会委員長（浅井 富雄）

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 昭和50年度事業経過報告
7. 〃 会計決算報告
8. 〃 会計監査報告
9. 学会賞および藤原賞受賞者選定規定の一部改正に関する件について
10. 昭和51年度予算案・事業計画案の審議
11. 山本義一会員を名誉会員に推薦する件について
12. その他
13. 気象学会賞受賞記念講演
14. 藤原賞受賞記念講演

昭和51年春季大会

(): 講演番号
— —: 座 長

	第 1 会 場		第 2 会 場		第 3 会 場	
18日 (火)	0900~1230	応用・大気汚染 (101~110) —河村 武—	0900~1230	大気大循環(201~210) —木田 秀次—	0900~1230	大気放射 (301~309) —青木 忠生—
	1330~1700	境界層(111~120) —北林 興二—	1330~1500 1500~1700	大気大循環(211~214) —木田 秀次— 熱帯気象(215~219) —村上 勝人—	1330~1700	大気放射 (310~317) —岩坂 泰信—
19日 (水)	0900~1200	境界層(121~130) —花房 龍男—	0900~1200	雨(220~226) —椎野 純一—	0900~1200	雲物理(318~326) —播磨屋敏生—
	1300~1500 1500~1700	シンポジウム 総会				
20日 (木)	0900~1230	境界層(131~140) —田中 浩—	0900~1230	局地循環(227~235) —吉門 洋—	0900~1230	気候(327~337) —能登 正之—
	1330~1700	積雲(141~148) —榊原 均—	1330~1700	局地(236~239) —荒川 正一— 観測(240~243) —榊子 敏郎—	1330~1700	エーロゾル(338~347) —小野 晃—

シンポジウム「極気象」

1. 日 時 第2日(19日)
2. 会 場 第1会場
3. 座 長 川口貞夫(極地研)
4. 話題提供者
片山 昭(気研・予報): 南極気象と数値モデリング
田中 正之(東北大・理): 極域の熱収支
渡辺 興亜(雪害研): 南極雪氷研究における気象学的諸問題

講演発表者へのお願

1. スライドのマウントに番号をつけること
2. スライドの上下を揃え、分るようにすること
3. スライドの標準枚数は6~8枚です。
4. 持ち時間(15分~20分)を超過したときは中止していただくことがあります。

研究発表題目

大会第1日(5月18日) 9時~12時30分

第1会場 応用・大気汚染 座長 河村 武

101. 当舎万寿夫(気研・台風)・三寺光雄(気研・応用)・菅原十一(自然教育園): 平地小流域の水収支
102. 榎山政子(気研・応用)・竹内寿一郎(慶応大・工): センサス・メソッドによる乳児肺炎死亡の解析
103. 榎山政子(気研・応用): 1970年代の季節病カレンダー
104. 赤井清康: 暖房室内の絶対湿度の垂直分布について
105. 神山恵三(気研・応用)・窪田為延(東医歯大)・瀬戸昌之(東京農工大): 森林より発散される炭化水素系の物質について
106. 岡本真一・塩沢清茂(早大・理工)・大滝 厚(明大・工): 拡散モデルによる大気汚染シミュレーション(第5報)——交差点周辺のCO濃度の計算——
107. 岡本真一・塩沢清茂(早大・理工)・大滝 厚(明大・工): 拡散モデルによる大気汚染シミュレーション(第6報)——準定常ブルームモデル——
108. 木村富士男・竹内清秀(気研・応用): 差分型拡散モデルによる大気汚染シミュレーション
109. 安達隆史・大田正次(日本気象協会・研究所): 大気拡散についての Berlyand の解析解の実用化研究
110. 内藤恵吉・高橋克己・田端 功・横田良夫・林 龍美(気研・衛星): ライダーによるダスト鉛直分布観測の解析
- 110-1. 斎藤哲史・太田久雄(千葉県・公害研): 千葉県におけるNO₂高濃度気象調査

第2会場 大気大循環 座長 木田 秀次

201. 須田滝雄: 太陽活動が気象に影響するメカニズム
202. 小川利紘(東大・理): 中間圏オゾンの季節変動
203. 村松久史(気研・高物): 成層圏・対流圏におけるオゾンの輸送(Ⅲ)
204. J.J. Barnett・廣田 勇(Oxford 大学): 熱圏波

動(PMR 速報)

205. 川平浩二(京大・理): 中間圏 プラネタリー波動と winter anomaly
206. 廣田 勇(京大・理): 成層圏 プラネタリー波の季節変動—(Ⅰ) 月平均値から見た波動の構造と長周期変化
207. 廣田 勇(京大・理): 成層圏 プラネタリー波の季節変動—(Ⅱ) 非定常波の季節別特性
208. 片山 昭・戸松喜一(気研・予報): 帯状平均モデルによる数値実験—南極大陸の熱的効果
209. 木田秀次・片山 昭・桜井 徹(気研・予報): 大気大循環2層モデルの熱・水過程について
210. 久保田 効(気象庁・電計): 北半球プリミティブ・モデルにおける熱収支

第3会場 大気放射 座長 青木 忠生

301. 瀨本正隆・横田道生・菅原由紀夫・高橋佳昭・都市気候グループ(アジア航測研): MSSにより観測される大気の消散係数の量的評価その1 (Remote Sensing における大気の Path Radiance の量的評価)
302. 村井潔三・小林正治・山内豊太郎・後藤良三(気研・高物): 大気的光学的特性の変動について
303. 一木明紀(気象庁・測候): 波長別直達日射計による大気の混濁係数の測定
304. 一木明紀(気象庁・測候): Ångström と Schüepp の混濁パラメータ決定に対する Filter の Cutoff 点移動の影響などについて
305. 嘉納宗靖・鈴木 正・宮内正厚(気研・高物): 波長域別水平面日射量の測定
306. 岩坂泰信・三田昭吉・磯野謙治(名大・水圏研): 成層圏のレーザーレーダー探査(Ⅰ)
307. 福山 薫(京大・理): 長期にわたる大気光強度変動の考察(Ⅲ) 日変化
308. 田中正之・中島映至(東北大・理): 大気-海洋系の放射伝達Ⅳ—波立った海面の場合—
309. 浅野正二(東北大・理): 水雲中の太陽放射伝達Ⅱ・2層雲の場合

大会第1日(5月18日)13時30分~17時

第1会場 境界層 座長 北林 興二

111. 荒川秀俊(東海大・理):東京タワーにおける気温観測成果の批判
112. 鳥貫 陸(東京学芸大)・板宮憲一(日科技研):大気汚染測定網のルーチン気象観測データによる地上風の地域構造の解析
113. 成田 脩(動燃・東海事業所):海風と大気安定度
114. 林 正康(公資研)・花房龍男(気研・物理):大気安定度と乱れとの関連について
115. 早川誠而(九大・農):風の頻度分布について
116. 林 正康(公資研):風の数日程度の周期の統計的解析
117. 森 征洋(香大・教育)・光田 寧(京大・防災研):風速変動の長周期成分について(IV)
118. 竹田 厚(東大・海洋研):超音波風速温度計を利用した湿度の乱流変動の測定の可能性
119. 蒲生 稔・横山長之(公資研):平坦地形上での大気境界層の構造
120. 石島 英(琉大):気温,湿度に対する大気境界層の安定度関数

第2会場 大気大循環 座長 木田 秀次

211. 久保田 効(気象庁・電計):放射を組み入れた北半球大気モデルによる半日周期気圧振動
212. 渡部文雄(京大・理):2層傾圧大気の20~30日周期の変動
213. 中村 一(東大・理):大気大循環モデル——山での気圧傾度項の計算誤差——
214. 中村 一(東大・理):大気大循環モデル——ロ

スビー波に対する水平分解能の影響——

熱帯気象 座長 村上 勝人

215. 尾堂克明(京大・理):熱帯成層圏のロスビー波の解析
216. 伊藤久徳(京大・理):成層圏赤道波の卓越周期と波数について
217. 丸山健人(気研・予報):インド洋上空の圏界面の変動
218. 村上勝人(気研・台風):インド内陸部における Monsoon Low の構造
219. 山本英城(大阪府・公害監視センター):台風の発生に関する理論的考察

第3会場 大気放射 座長 岩坂 泰信

310. 松野太郎・松田佳久(東大・理):金星大気の輻射・対流平衡(III)
311. 佐藤隆夫:金星の散乱光(I)——平面大気,一次——
312. 佐藤隆夫:都市気候としての日照権侵害率算定法(I)
313. 広野幹彦(新潟大・工):非ローレンツ型吸収線の幅
314. 山内 恭・青木忠生・田中正之(東北大・理):CO₂ 近赤外帯の吸収特性(III)
315. 井沢龍夫(気研・台風):NOAA-VTPR データによる水温分布
316. 阿部勝宏(気象庁・気象衛星):広域放射海面水温についての解析
317. 山岸照幸(気象庁・気象衛星):静止衛星 SMS 赤外放射計による雲頂温度の分布解析

大会第2日(5月19日)9時00分~12時00分

第1会場 境界層 座長 花房 龍男

121. 蒲生 稔・横山長之(公資研)・森 俊秀(東海大):逆転層の日変化観測(その2)
122. 石川信敬(北大・低温研):積雪期の盆地における夜間放射冷却時の熱収支
123. 近藤純正・金近 治・安田延寿(東北大・理):夜間冷却における放射と乱流の役割
124. 横山長之・山本 晋・蒲生稔(公資研):低層大気中における乱流変動の微細構造(III)
125. 鳥貫 陸・浦野 弘(東京学芸大):エネルギー

方程式と Hanna の式から求めた φ と Z/L との関係

126. 近藤純正・安田延寿・金近 治(東北大・理):安定時における接地気層の乱流構造
127. 田中 浩(電波研):昼間の対流圏低層における逆転層,重力波および熱対流のカップリング
128. 伊藤昭三・松崎純枝(大阪府大・工):不飽和大気中における水蒸気及び水滴を含んだブルームの考察
129. 田中正之(東北大・理)・太田幸雄(国立公衆衛

生院)：放射霧の生成・消滅過程の数値実験

130. 岸谷祥美(日大・生産工)：2地点の風速変動の
コヒーレンスについて

第2会場 雨 座長 椎野 純一

220. 竹永一雄・杉井 徹(高知地台)：水蒸気及び温
度の移流量と不安定現象について
221. 竹永一雄(高知地台)：台風7505による集中豪雨
の解析的研究
222. 榎原 均・今井博子(気研・予報)：東よりの風
による大雨(1)
223. 二宮洗三・秋山孝子(気研・予報)：豪雨のスケ
ールと水蒸気収支
224. 中山 嵩・立平良三(気象庁・電計)：大雨ポテ
ンシャル予想に有効な予測因子
225. 藤原滋水(甲府地台)：雨量から逆算した山岳気
流系
226. 近藤洋輝(気象庁・電計)：メソスケール擾乱の
数値予報

第3会場 雲物理 座長 播磨屋 敏生

318. 播磨屋敏生(北大・理)：アラレの embryo と内
部構造について(その3)——薄片観測——
319. 高橋忠司(埼玉大・教育)：多結晶凍結水滴の結
晶のC軸間の角度について
320. 山見信之・孫野長治(北大・理)：B軸方向に成
長した雪について
321. 磯野謙治・丸山 稔(名大・水圏研)：氷晶の初
期成長段階における形状について(統報)
322. 菊地勝弘(北大・理)：夏季の南極点におけるダ
イヤモンドダスト
323. 桜井兼市(北教大・旭川)：板状結晶に付着した
雲粒の観測
324. 武田喬男・藤吉康志(名大・水圏研)：垂直レー
ダーによる降水雲内の融解領域の観測
325. 梶川正弘(秋田大・教育)：初期雪片の落下パタ
ーンについて
326. 高杉年且・後町幸雄(京大・防災研)：雨滴の電
荷と粒径の同時測定

大会第3日(5月20日) 9時00分~12時30分

第1会場 境界層 座長 田中 浩

131. 二宮洗三・秋山孝子(気研・予報)：寒気吹出時、
AMTEX 海域の準定常的な混合層の解析
132. 椎野純一(気研・台風)：AMTEX '75 期間中の
逆転層について(2)
133. 藤田敏夫・本多庸浩(気研・予報)：宮古島にお
ける逆転層の微細構造—AMTEX '75—
134. 花房龍男(気研・物理)・藤田敏夫(気研・予報)・
魚津 博(気研・衛星)：宮古島における乱流輸
送量の観測(AMTEX '75) II
135. 近藤純正(東北大・理)：海上における抵抗、地
衡風、温度風、風向(AMTEX 解析—その2)
136. 内藤玄一(防災センター)：海上における運動量、
顕熱輸送の直接測定とパルク係数
137. 藤谷徳之助(気研・物理)・光田 寧(京大・防
災研)：海洋上の乱流輸送過程の研究(2)
(AMTEX '74)
138. 米谷俊彦(岡山大・農生研)：多良間島におけ
る乱れの測定結果について(II)
139. 塚本 修・光田 寧(京大・防災研)・文字信貴
(大阪府大・工)：多良間島における乱流輸送量
の測定(その3)—AMTEX '75—

140. 文字信貴(大阪府大・工)・塚本 修・光田 寧
(京大・防災研)：大気の乱れに対する島の影響

第2会場 局地循環 座長 吉門 洋

227. 大井正一(東京理大)・湯山 生(三宅島測)・和
田光明(新日本気象海洋KK)：山雲の機構(12)
吊し雲、笠雲、列状吊し
228. 青木 孝(気象庁・予報)：寒冷前線通過後の関
東地方の局地的悪天候について
229. 杉原保幸(東大・海洋研)：局地風の研究「松本
の南風」
230. 中村圭三(法政大・大学院)：夜間の冷気流の周
期について
231. 宮田賢二(広島女子大)：瀬戸内海の高陸風(VI)
232. 北林興二(公資研)：海陸風の統計解析(I)
233. 北林興二(公資研)：海陸風の統計解析(II)
234. 瀧本正隆・早川清二郎・成ヶ沢憲 太郎・村治能
孝・都市気候研究グループ(アジア航測(株))：
MSS を用いたHeat Island 現象の把握・解明—そ
の1 単純モデル地域における実測結果について
235. 木村竜治・三沢信彦(東大・海洋研)・坂上治郎
(お茶の水大・理)・国井利泰(東大・理)：ヒー
トアイランドに伴う対流実験(第3報, 完結)

特に対流の効果について——

第3会場 気候 座長 能 登 正 之

327. 土屋 清 (宇宙開発事業団)・落合弘明 (鳥羽商船高専): LANDSAT データ利用による中部地方の積雪分布調査
328. 土屋 巖 (国立公害研): 大量積雪による氷河現象——鳥海山貝形小氷河について
329. 大井正一 (東理大)・内山徳栄 (気研・予報): 成層圏天気図の解析 (27) 一月の各層と暖寒冬
330. 山元龍三郎・岩嶋樹也 (京大・理)・星合 誠 (愛知学院大): 火山大噴火に伴う下部対流圏の気温変化 (第2報)
331. 岩坂泰信 (名大・水圏研)・山下喜弘 (気象庁・気象衛星): Solar Proton Event と地球大気の熱構造

332. 高橋浩一郎 (筑波大): 気象5年周期の分析
333. 三上岳彦 (東大・地理): 北半球における月平均気温偏差場の統計解析
334. 中西 朗 (新潟市立桃山小学校): 日本近海の気温と瓢湖の白鳥最大羽数
335. 志賀正信 (福岡管区)・真鍋大覚・佐藤洋子 (九州大): 棕平虹による地震予報的中率に現われる気象地象の卓越周期
336. 志賀正信 (福岡管区)・真鍋大覚・佐藤洋子 (九州大): 玄界灘を通過する十四年周期の大風と緯度変化並びに地震発生の卓越周期の関連について
337. 志賀正信 (福岡管区): 真鍋大覚・佐藤洋子 (九州大): 日蝕正見の記事から推定される春秋の世の朔日の天気

大会第3日 (5月20日) 13時30分~17時00分

第1会場 積雲 座長 榊 原 均

141. 孫野長治・穂積邦彦 (北大・理): 積雲の回転運動 (I)
142. 穂積邦彦・孫野長治 (北大・理): 積雲の回転運動 (II)
143. 播磨屋敏生・足立俊三・穂積邦彦・孫野長治 (北大・理): 積雲の上昇流の観測
144. 早川誠而・坂上 務・元田雄四郎 (九大・農): レーダーから見た対流雲の特性
145. 吉住禎夫 (気研・予報): 梅雨期の西日本上空における運動量の鉛直対流輸送
146. 浅井富雄 (東大・海洋研)・中筋 勲: 条件付不安定大気中における積雲対流の卓越モードについて
147. 小元敬男・八木鶴平・清野 裕 (防災センター): 群馬県にあらわれるひょう雲の特徴
148. 宮崎忠臣・国分里美・大森保樹 (宇都宮大・工): 雷雲移動状況と雷撃点との関連性

第2会場 局地循環 座長 荒 川 正 一

236. 高野憲治 (東大・理): 大気局地循環の数値シミュレーション 1. 局地循環モデルの設計
237. 高野憲治 (東大・理): 大気局地循環の数値シミュレーション 2. 人間活動と一般風の効果
238. 吉門 洋 (公資研): 海陸風の水平スケールと数値モデル (その2)
239. 吉門 洋 (公資研): 海陸風の水平スケールと数

値モデル (その3)

観測 座長 神 子 敏 朗

240. 高山陽三・村山信彦 (気研・衛星): 静止衛星赤外面像からの雲移動ベクトル算出実験
241. 神子敏朗 (気象庁・気象衛星): 衛星写真上の陰から雲高を求める方法
242. 須田友重 (気研・高物): キアリアパルーンシステム
243. 後町幸雄 (京大・防災研): 半自動雨滴粒度測定記録装置

第3会場 エーロゾル 座長 小 野 晃

338. 小野 晃 (気研・物理) 日本上空の沈降性気団中に存在するサブミクロン・エーロゾル粒子の化学組成同定とその起源
339. 池辺幸正・山田裕司 (名大・工): 硫酸エーロゾル粒径分布の測定 (I)
340. 鈴木孝昌・池辺幸正 (名大・工): 紫外線照射によるエーロゾル発生の初期過程 (I)
341. 池上三和子・三崎方郎・金沢五寿雄 (気研・高物): 海上での小イオンの移動度
342. 三崎方郎・矢野 直・池上比呂志・堤敬一郎 (気研): 南鳥島におけるエーロゾルの濃度分布 (或る極めて単純な地形と条件下におけるエーロゾルの分布)
343. 伊藤朋之 (気研・物理): 南鳥島における大粒子 (直径 0.3μ 以上) の観測 (バックグラウンドエー

- ロゾルの研究4)
344. 矢野 直・山路 勲・前橋紀恵子 (気研)・枝川秀嗣 (東邦大)・武田孝之 (京大原子炉) : 南鳥島におけるエアロゾル粒子の形態, 元素濃度, 濃縮度
345. 三宅泰雄 (地球化学研究協会)・猿橋勝子・葛城幸雄・金沢照子 (気研・化学) : 北半球における放射性物質降下の地域的変動
346. 三宅泰雄 (地球化学研究協会)・葛城幸雄 (気研・化学) : 中国核実験 (第15, 16回) による ^{90}Sr 降下
347. 中谷 茂 (電総研)・角田智良 (東理大・理) : エアロゾルの蛍光X線分析